※※※※※※※※※※※※※（飯田ふれあい交流センター）※※※※※※※※※※※※※

こんにちは 飯田まち協 です

朝日長者物語　七不思議　その⑤

「七不思議」シリーズ５回目は、【不断鶴】です。

長者は一番の鶴を飼っていた。長者一族が没滅後も２羽の鶴は相変らず千町無田一帯を飛び回っていた。子鶴が生まれても、又病気か何かで１羽が死ぬことがあっても、いつの間にか雌雄一番の鶴に戻っていたので、不断の双鶴といって土地の人から親しまれていたが、文政六年心ない一猟師が、鉄砲で打つと、一発の弾で２羽共一緒に倒れた。そのことが代官の耳に入り猟師は代官から厳しくお咎めを受けた。悔悟した猟師は年の神の近くに墓石を運んだ。そしてその猟師は京都の本願寺に碑文にするからと鶴の法名を頼んだがなかなかうんと言わなかった。そうこうするうちにその猟師は死んだので墓石もそのままになっていた。

昭和２２年、丁度この頃年の神に遁生中の元陸軍中将三好一と筌ノ口に住んでいた元飯田村長時松元俊の二人が後生に残すために何とかしようと相談して適当な穂石を探してきて、碑文を時松が作文し、文字を三好が書いて建碑した。これを鶴の墓といっている。　（「九重風物誌」より）

平成23年度に九重飯田高原デザイン会議と飯田地区まちづくり協議会が作成した看板

鶴の墓

日本人が忘れかけている季節を表す言葉　節句 ・ 雑節　その④

雑節（ざっせつ）

節分（せつぶん）・彼岸（ひがん）・土用（どよう）・社日（しゃにち）・八十八夜（はちじゅうはちや）・入梅（にゅうばい）・半夏生（はんげしょう）・二百十日（にひゃくとおか）・二百二十日（にひゃくはつか）

中国由来の暦では農業に従事する日本の人々が十分に季節の変化を掴めないため、それらを補助するために独自に作られた暦。古くから日本人の生活に溶け込んでおり、年中行事や物忌みが伴う。

【入梅】～梅雨に入る最初の日のこと。現在は各地の気象台・気象庁が「梅雨入り宣言」を出しているが、旧暦では立春から１２７日目と定めていた。これは新暦の６月１１日頃に当たる。梅雨入りといっても、日本は南北に長いため、実際には１ヶ月程度の差が生じる。

「梅雨」と書くのは、青かった梅がこの時期に熟し、黴（かび）が発生しやすくなることから「黴雨（ばいう）」としたからともいわれる。

入梅は旧暦５月頃に当たったため、この時期の雨のことを「五月雨(さみだれ)」、梅雨の合間の晴れを「五月晴れ」という。（『日本のしきたり』より）

男女共同参画週間について

〔趣旨〕男女が、互いにその人権を尊重しつつ喜びも責任も分かち合い、性別にかかわりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の形成に向け、男女共同参画社会基本法（平成１１年６月２３日法律第７８号）の目的及び基本理念に関する国民の理解を深めるため、「男女共同参画週間」を設ける。

男女ともに　自らの個性と能力を
最大限に発揮できる社会の実現を目指して！

＜令和６年度 男女共同参画週間における キャッチフレーズ＞

最優秀作品　だれもがどれも選べる社会に
優秀作品　性別でなく「自分」の色で未来を描ける社会へ
優秀作品　男でしょ？　女でしょ？
　だからなんでしょう？　もうやめましょう。

毎年　6月23～29日　の1週間は、男女共同参画週間　です。

～ だれもが　どれも　選べる社会に ～